

## 令和7年度 第1回読書部会 議事概要

日 時 令和7年8月12日（火）10時30分～正午

会 場 大阪府庁別館6階 委員会議室

出席者 久野委員、河瀬専門委員、藤井専門委員

### 議事

- (1) 大阪府社会教育委員会議読書部会部会長の選出等について
- (2) 会議の公開について
- (3) 第4次大阪府子ども読書活動推進計画の総括（案）について
- (4) 第5次大阪府子ども読書活動推進計画（案）について

### <意見・質疑要旨>

#### ◆議事（1）大阪府社会教育委員会議読書部会部会長の選出等について

（事務局）「大阪府社会教育委員会議読書部会運営要領」第3の（2）の規定により、委員の皆様の互選により部会長を選出することとした。委員からの推薦がないようなので、事務局から久野委員を推薦しますが、皆様いかがか。

（委員） 【異議なし】

（事務局） 異議がないようなので、部会長を久野委員にお願いします。

（委員） 【異議なし】

（部会長） 副部会長に河瀬委員を指名しますがいかがか。

（委員） 【異議なし】

（部会長） 異議がないようなので、副部会長を河瀬委員にお願いします。

#### ◆議事（2）会議の公開について

（事務局） 【資料③説明】

「事務局としては、本日の議事内容は、指針の3.にある条例第8条又は第9条のいずれの規定にも該当しないものであり、かつ会議を公開することにより、公正・円滑な審議が著しく阻害されるものでもないと考えことから、会議については、公開が妥当と考えている。皆様いかがか。」

（委員） 【異議なし】

（部会長） 異議がないようなので、会議は公開とする。

（委員） 【異議なし】

◆議事（３）第４次大阪府子ども読書活動推進計画の総括（案）について

（事務局） 【資料④、参考資料③説明】

「資料やグラフ等の結果から他にも読み取れること、また考察等について委員の皆さまのお考えや現場での子ども読書活動の様子等、さまざまな視点で忌憚ないご意見をお聞かせください。」

（委員） 泉大津市も図書館が新しくなったところで、単独の子ども読書活動推進計画を作成した。作成にあたって、本を読まない、図書館に行かない子どもたちに意見を聞いた。「めんどくさい」という声が一番にあがった。ワークショップをしている中で、「漢字が読めない、書けない」ハードルがあることが分かった。ただ本を読みたい気持ちはあるし、本が好きだとも言っていた。しかし朝読書など強制されて読むのはいや、休み時間に教室にあったら読むが、読み始めて休み時間が終わるからやめなさいと言われると不満に思うなど、いろいろな思いを語ってくれた。学校図書館の本が古く、表紙がかわいくないから読みたくないという声もあり、現在市立図書館から数百冊ずつ選んで学校に配送している。２か月ごとに入れ替えて、いつでも新しい本に手が届く仕組みをつくっている。また学校図書館の地域開放も動き出し、学校図書館の場所を変えたり設備を新しくしている。やはり最初のハードルは本がすぐ手の届くところにあるかどうかではないか。

（委員） 先ほどの報告の中で、「１番身近な学校図書館や地域の図書館が活用されていない」とあったが、なぜかということを考えることが必要。学校図書館が閉まっていたり、地域の図書館が遠かったりと、利用したいけどできないという状況があるのではないか。子どもたちが利用しないではなく、こちら側が利用できるように環境を整えていくことが必要。

（委員） 学校図書館も公共図書館も利用できるように整っていない。その原因の１つが学校司書の配置だが、学校司書が全校に毎日専任で配置されているところはいいが、複数校配置となると、学校図書館に学校司書がいない日や時間が出てくる。その結果、週２回しか借りられない学校と毎日借りられる学校が出てきて、その貸出冊数は全然違ってくる。また調査結果において、不読率が全国的に上がっているとのこと。今の小学校６年生は１年生の時にちょうどコロナ禍で入学だった。学校図書館や地域の図書館において、図書館の使い方や本の借り方などの利用教育の機会がなかった。またおはなし会などもできず、本に接する機会が少なかった。その間にタブレット端末も導入された。本の楽しみ、お話の楽しさを得る機会はやはり大切だと感じるので、今こそそういった機会を増やしていくべき。

（委員） 調査結果において、「読書をする時間がない」という回答が多かったとあった。塾や勉強に時間を取られている子はとても多い。中にはいくつもの塾をかけ持ちして、その合間にスマホのゲームで息抜きをしている。一方で貧困家庭は塾には行けず、家でゲームをしている。そして不登校やいじめ、虐待などいろんな生きづらさを抱えている子どもたちがいる。そういう子どもたちに対して、どう働きかけていくか。こうした違った環境の子どもたちに対して、別々のはたらきかけが必要となってくる。読書は子どもたちがどうやって生きていくのかという希望を見つけられる。SNSだと逆にどんどん悪い方に呼ばれていったり、犯罪に巻き込まれたりすることもある。学校を中心に支援が必要だが、かつては文庫という場所もあった。現在はどうか。

(委員) 地域文庫をしているが、子どもたちはとても忙しく、土曜日に開催しているが、みんな何かに出かけていて、来てくれる子どもがだいぶ減っている。地元の小学校の学童がどんどん人数が増える傾向にあり、公共図書館が団体貸出をおこなっているのだが、指導員がどんな本を子どもたちに選んであげたらいいかわからない。いろんな子どもの場面に合わせた本の紹介などの啓発活動が必要。

(委員) 昔の文庫は小学生が100人も200人もおしかけるということをよく聞いたが、今は子どもたちよりも赤ちゃんとお母さんが来て、赤ちゃんに対して読み聞かせをするみたいなのところが増えていると伺っている。それもとても大事なことであり、将来の読書に繋がる。あと子どもにとって一番身近なのは学校であり、教室の文庫や、学校図書館をいかに充実させるかというところが一番の希望ではないか。公共図書館も支援をされていると思うが、それに関してもかがか。

(委員) 公共図書館が学校図書館に赴き、充実に寄与することが大事だと感じている。泉大津市の図書館は、小中高生がたくさん来てくれる。中には不登校の子どもも来ている。その中のある子どもが、ふと顔をあげたときに本があるから読んでみよう、勉強しようと思ったと話してくれた。また図書館で経営シミュレーションゲームをおこなっているが、そのゲームを通して経営学に興味を持ち、経営学が学べる大学を目指していると話していた。やっぱり手元に本がある、情報があるという状況をどうやってつくれるかが大切ではないか。

泉大津市は直営なので、学校現場にも入りやすい。同じ教育委員会に属するので、「公共図書館も学校も同じ子どもを見ているよ、だから一緒にこんな取り組みをやりましょう」と言える。しかし指定管理だと難しい。学校に入るのにまずハードルが高い。

(委員) やはり公共図書館が直営であるってことはすごく大事なことだと思う。そして学校図書館もそうだ。非常勤とか嘱託とかではなく、専門で週5日、そして研修を受けている学校司書がいるということがものすごく大事であり、直営の公共図書館とお互いにしっかりと連携をとって読書活動を進めていくことが理想の形である。その中で地域の支援を受けながら、この三位一体でやっていくのが本当に理想的だと感じる。

(委員) 乳幼児サービスについて、保健所の3ヶ月健診に入らせてもらう機会があった。保健所は始め消極的だったが、始まってみると大変好評であった。待ち時間の間ずっとお話をしているのだが、お母さんたちに「自分も楽しいんだ」という経験を持ってもらえた。その後ずっと続くことなので、これからも続けていきたい。

(委員) 地域の方が読書活動に参加されることはすごく大事なこと。いつかは学校を卒業するので、公共図書館の施設に行かないと利用できない。そういった意味でも、やっぱり家庭や地域は基盤となる。地域の方が読書活動に参加することはとても大切だし、活躍していただきたい。

(委員) 不登校の件をもう少し聞きたい。

(委員) 不登校で図書館に来ている子は、大人と接したくないだろうから広く見守っている。自分がきていることを認識されるのも嫌なのではないかと思う。次の段階で考えているのが、公共図書館にすることが出席扱いにならないかということ。私が以前勤めていた図書館では出席扱いにしてもらっていた。図書館に来て、図書館のお手伝いをしたり、課題を調べたり、図書館の中で過ごしたら半日でもそれを出席扱いにしていた。泉大津市でもそういうことができないか、教育委員会と協議している。

(委員) 最初は大人と接したくなくても、だんだん慣れて、挨拶して、そして話して…となっていくかなと思う。手元にある本に手が届くし、すごく大事な取り組みだと感じる。ぜひ広げていただきたい。しかしそれは直営だからこそできるのでは。指定管理だとやっぱり難しいと感じる。人がコロコロ変わるし、認識も違う。

(委員) 私も以前は指定管理で仕事をしていましたが、本当に学校と接するのに大きなハードルがある。学校宛に連絡箱を使うことができなかったため、市内の学校などに郵送していた。また学校図書館側から何か手伝ってくださいと言われても、仕様書に書いてないことなので、会社からはNGだと言われるし、教育委員会からはちょっと飛び越えていませんかと意見される。今回泉大津市で「見ているのは同じ市民・子どもですよね。」と伝えて、いろいろな課と一緒に様々な取組をしている。この先の話になると思うが、計画の中で、事例をいろいろ示していくことも何か道筋になるのではないかと感じる。

(委員) 特に泉大津市立図書館は様々な努力をして、他課や民間企業とも連携ネットワークを作っており、それは本当に直営だからできることではないかと思う。しかし大阪府はどんどん指定管理が進んでいる。すぐに市民と接する一番大事な窓口が、指定管理になってしまった。市民の直接の声を聞く場なのに。選書に関しても市民の声が届かないと思うので、どうやっているのか不思議。ニーズを捉えるためには、人的資源をしっかりと整理することが大事だと思う。

#### ◆議事(5)「第4次大阪府子ども読書活動推進計画(案)」について

(事務局) 【資料⑤の説明】

「第5次計画につきまして、取組みの柱の文言・内容等、また府の施策の内容やどのような取組をしていけばよいか、成果指標は適当か、その他気になることがありましたら、なんでも忌憚ないご意見をお聞かせください」

(委員) 成果指標について、「全く読まない子どもの割合を、全国平均以下とする。」に、「毎年減少させること」をなぜ付け加えることになったのか。

(事務局) 文科省の学力調査で全国の結果を見たときに、全国が下がると大阪府も下がり、全国が上がると大阪府も上がっている。そのように連動していることが多いので、他と比べることも大事だが、大阪府で比べていくことも必要ではないか、大阪府として取組みの結果、以前より減っているや変わらない等、そういった観点も大事だと感じたので、追加した。

(委員) 説明を聞いて分かったが、この言葉だと少し分かりづらいと思う。もう少し書き方を変えてみてはどうか。

(委員) 「すべての子どもたち」とあるが、どこまで追っているか。以前他県の読書計画を考える際に、「すべて」はどこまでが「すべて」なのかと考えることで、取組みが変わった。意識として「すべて」は地域の学校に来ている子ども、不登校の子ども、病院で過ごす子ども…。「すべての子どもたち」をどこまで描いているのかで、取組みが変わってくる。

「楽しさ」とたくさん入っているのはよいと思う。読書が苦痛になるのはよくない。面倒ということにも通じるが、やっぱりやりたくないことを強制されるのが一番面倒に結びつくと思う。自分が本気でやりたいことじゃないのにやらされたり、周りに合わせて動いたり。読書の楽しさが大きくフィーチャーされるとよい。

もう一つは図書館員もだが、学校の先生も意識を変えていただきたい。例えば書物を読むとなると物語しかイメージがないとか、1冊全部を読まないで読書にはカウントしませんではなく、途中で読むのやめたっていい、借りたのに面白くなかったときは返却していい、最後まで全部読まなくてもいいことを子供たちに伝えたい。もっと読書を楽しんでいいよと指し示して欲しい。

(委員) 今読書バリアフリーが盛んに言われているが、病院や予防施設など、そういった今まで目が届かなかった子どもたちに目を向けましようとなっている。在宅医療も今までとりこぼされていたかなというふうに思う。その他にもまだまだ目が届いていない子どもたちがいるかもしれないので、すべての子どもたちっていうところを、もう少ししっかりと対処していかないといけない。

(委員) 今、外国からたくさんファミリーで子どもたちが入ってきている。その子どもたちにどのようにして本の楽しさを得てもらえるか。ただこれからもどんどん増えると思うので、読書が最終目的ではなくって、読書を通して自分のルーツに誇りを持てるようにとか、そういうところに繋がっていけば、私はそれも一つの読書のあり方かなと思う。

学校司書の話で、今いろんな情報が飛び交っているので、調べ学習でも必ず裏を取るようになっているということを知った。社会に出て、いろんな情報を得て自分が行動するうえですごく大切なこと。ひとまず調べ学習の基本になるところを、タブレットでいろんな情報を得られるけれども、紙の本での調べ方を身につけてもらえるように一生懸命やっているとのこと。そういうことを学校司書だけでなく、担任の先生にも研修してほしいと感じる。学校全体で、校長先生を初めとして、先生方に認識してもらえるようお願いしたい。

(委員) 外国にルーツを持つ子どもたちとどう接していくかということ、そういった子どもたちの中には学校にも行っていない子どもが数万人いるという話も聞いたことがある。多分図書館にも行っていない。そういった子どもたちにとって読書はとても大事だと思う。さっきもあったように読書を通してアイデンティティの形成と人格形成はできる。そういった教育力として読書活動は大事になってくる。

(委員) 本を読むのが面倒ということだが、本の読み方が分かっていないところがある。それに関しては、学校でしっかりと教えていく。探究学習や読書について、学校の先生に研修を受けてもらいたい。ただ忙しい先生方にさらに負担をかけるのは大変申し訳ないというところもあるので、だからこそプロの学校司書を入れて、チーム学校として学校図書館を充実させることがすごく重要。特に先生方は読書に関しては、学習とか勉強に価値を見出して、本の楽しさという本は娯楽であるとかレクリエーションだとか、息抜きだという部分に関しては等閑視している。ただ実はそこがすごく



みができればいいかなと感じる。大阪府に関してはすごく大きい組織なので、部署が違えば階や建物も違うなど難しくなるのかもしれないが、泉大津市を参考にぜひ進めていただきたい。

(委員) 事務局におかれては、ただいまのご意見を踏まえて、今後の検討のご参考としていただくようお願いするが、それでよろしいか。

(委員) 【異議なし】

(事務局) では、今後のスケジュールについて、説明する。

【資料⑥の説明】

◆ 閉会